

付着生物(ユウレイボヤ等)ラーバ情報

平成25年10月10～15日に陸奥湾4定点で第1回付着生物(ユウレイボヤ等)ラーバ調査を行ったので、その結果をお知らせします。

1 ラーバの出現数

ユウレイボヤラーバの出現数の推移は図1、各地の出現数は図2のとおりです。小湊沖で3.8個/トン、久栗坂沖、川内沖、野辺地沖では0個/トンでした。

その他の付着生物のラーバ等の出現数は表1のとおりです。ザラボヤは久栗坂沖で1.1個/トン、マボヤは川内沖で0.8個/トン、オベリア類(通称「クサ」)は久栗坂沖で0.6個/トン、小湊沖で3.8個/トン見られました。

表1 その他付着生物のラーバ等の出現数

調査地点	調査月日	ザラボヤ	マボヤ	オベリア類	ネンエキボヤ
久栗坂沖	H25.10.10	1.1	0.0	0.6	0.0
小湊沖	H25.10.15	0.0	0.0	3.8	0.0
野辺地沖	H25.10.14	0.0	0.0	0.0	0.0
川内沖	H25.10.10	0.0	0.8	0.0	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

2 水温の状況

各ブイの10月16日の平均水温は、表2のとおりです。

表2 各ブイの中層における日平均水温(10/16)

観測地点	水温(°C)	観測地点	水温(°C)	観測地点	水温(°C)
平館ブイ	20.7	東田沢ブイ	-	横浜ブイ	20.1
蓬田ブイ	-	清水川ブイ	-	浜奥内ブイ	19.6
奥内ブイ	19.7	野辺地ブイ	-	川内ブイ	20.4
青森ブイ	20.3	東湾ブイ	20.3	脇野沢ブイ	20.4
浦田ブイ	-				

※奥内、浦田、野辺地、浜奥内は10m層、それ以外は15m層の値

3 今後の見込み

ユウレイボヤは水温が20°C以下になると産卵するため、これからラーバの出現数が増加する可能性があります。

また、オベリア類(クサ)、ネンエキボヤなども今後、出現数が増える可能性があります。

ラーバ情報を来年の3月にかけて月2回発行しますので、養殖作業の参考にしてください。

4 参考(トピックス)

ユウレイボヤの生態は以下のとおりです。

- ・大規模な産卵は初夏と秋の年2回で、秋の産卵時期は水温が20°C以下になる10月～11月。
- ・ユウレイボヤは雌雄同体で、産卵時期になると輸精管に白い精子が、輸卵管に赤い卵が確認できる。
- ・ラーバはオタマジャクシのような形で、大きさは1.2～1.3mm(写真1)。
- ・ラーバの浮遊期間は約2日と非常に短いため、広範囲に拡散しない。
- ・ラーバは光を嫌う性質があるため、表層よりも20m以深の中層に多い。
- ・目合いが大きく、単繊維(カエルまた)のネットほど付着し難い。



写真1 ユウレイボヤラーバ

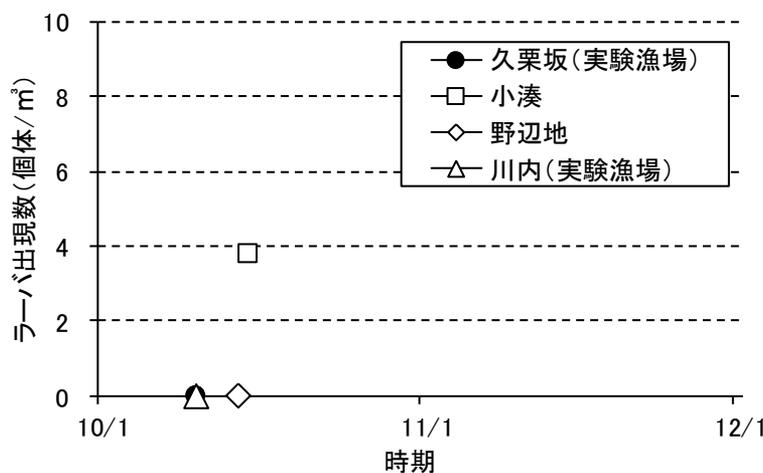


図1 ユウレイボヤラーバ出現数の推移

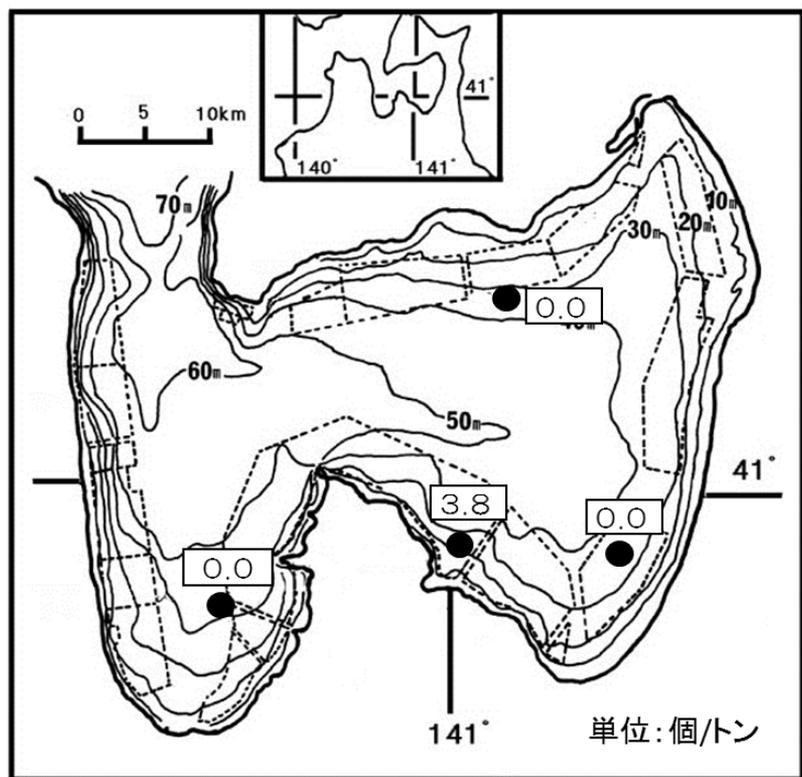


図2 調査地点別のユウレイボヤラーバ出現数

